

2026年3月8日13:00～16:30
オンライン開催

4年制大学推進部会シンポジウム 事後アンケート報告



公益社団法人

日本理学療法士協会

Japanese Physical Therapy Association

開催概要

【日時】

2026年3月8日 13:00~16:30 (オンライン開催)

【プログラム】

会長挨拶：齊藤 秀之 氏 (公益社団法人 日本理学療法士協会 会長)

講演：佐々木 昌弘 氏 (大臣官房 医療技術・統括審議官)

シンポジスト：総合討論

小川 克巳 氏 (参議院議員)

藤澤 宏幸 氏 (日本理学療法学会連合 理事長)

日高 正巳 氏 (日本理学療法教育学会 理事長)

大西 秀明 氏 (全国大学理学療法学会 理事長)

座長：白石 浩 氏 (日本理学療法士協会 専務理事)

大塚 圭 氏 (日本理学療法士協会 4年制大学推進部会 部会長)

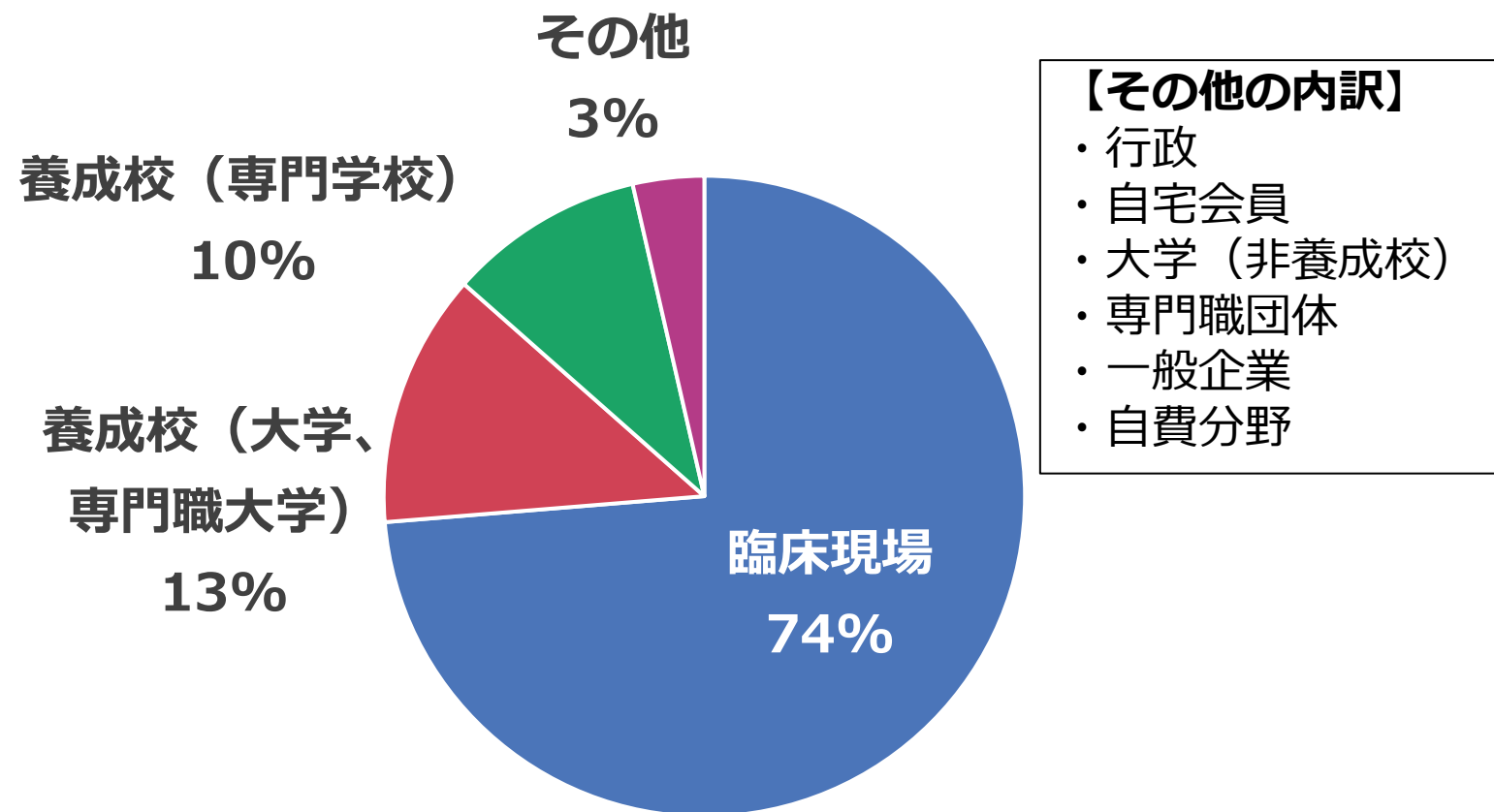
申込者数：555名 当日参加者数：448名

事後アンケート

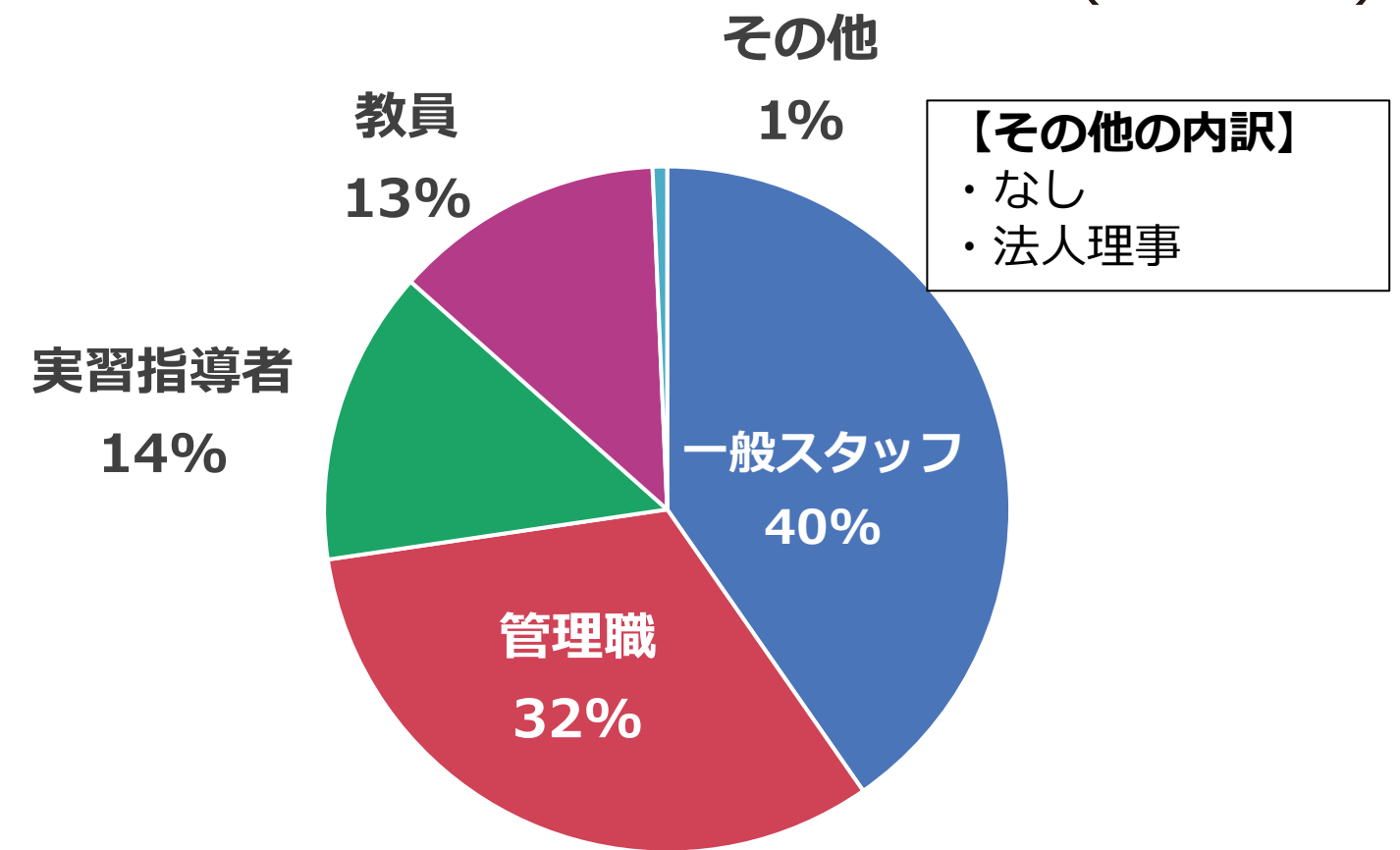
- 調査方法：シンポジウム終了時にGoogle formにて実施
- 質問項目：全25問（一部対象者を絞った質問を含む）
- 回答者数439件（回答率：98%）

回答者の属性

Q11.現在のご所属を教えてください。
(n = 439)

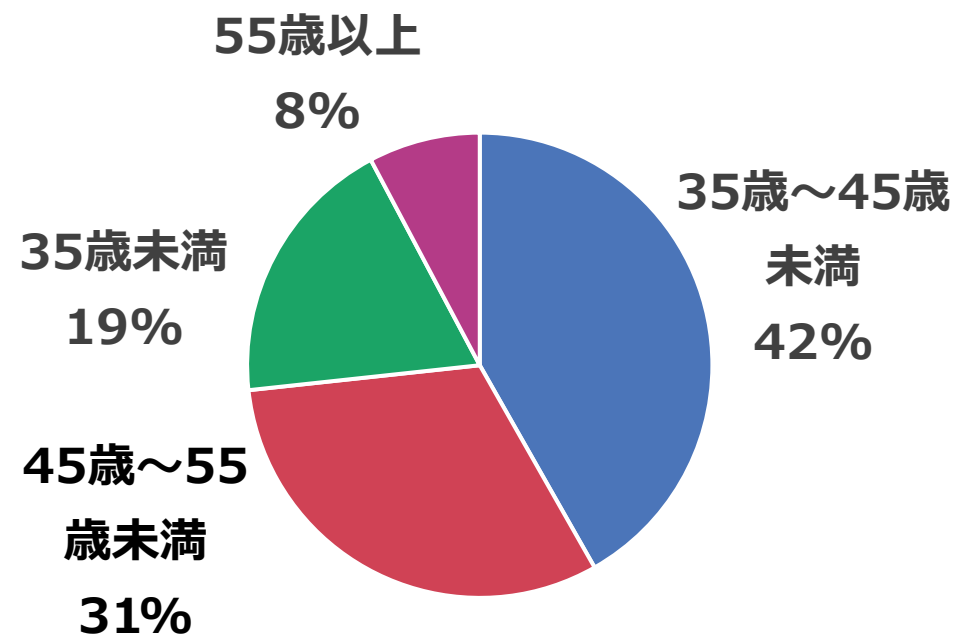


Q17.現在の役職を教えてください。
(n = 439)

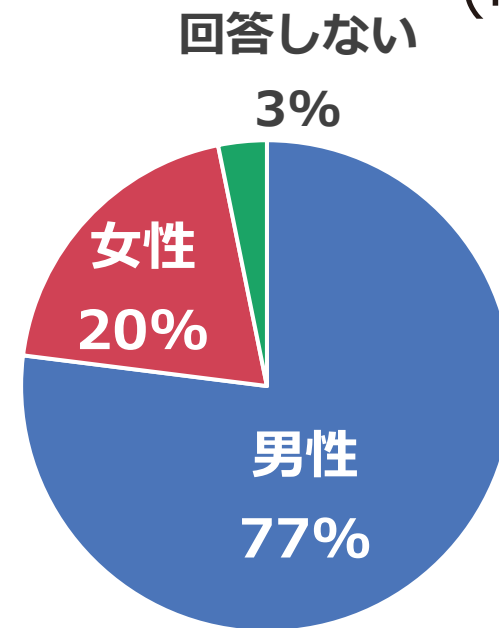


回答者の属性

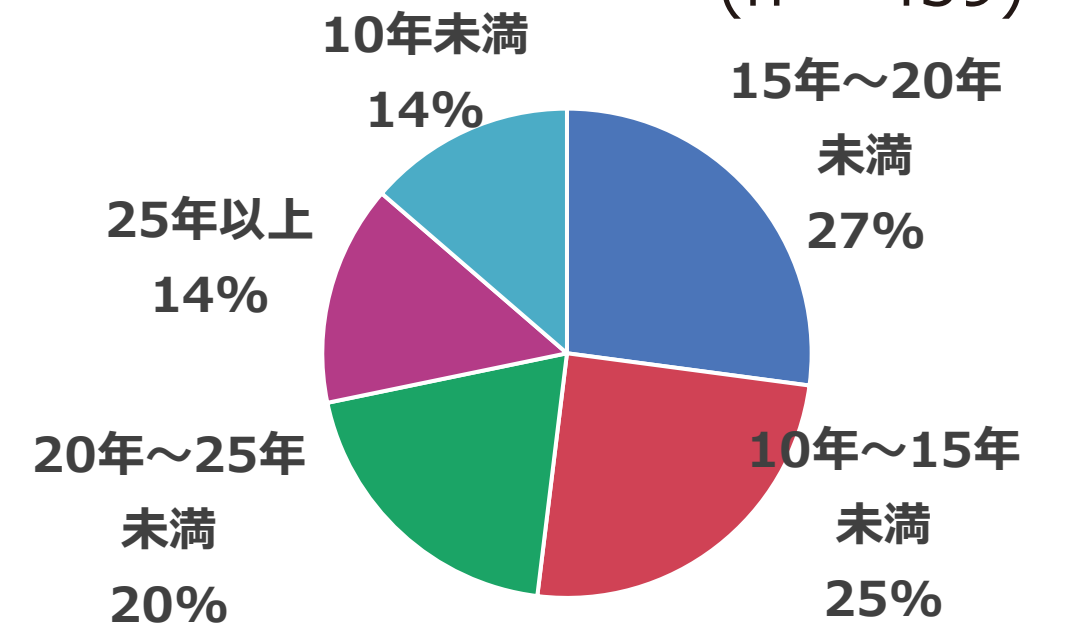
Q18.年齢を教えてください。
(n = 439)



Q19.性別を教えてください。
(n = 439)



Q20.理学療法士としての経験年数
(n = 439)

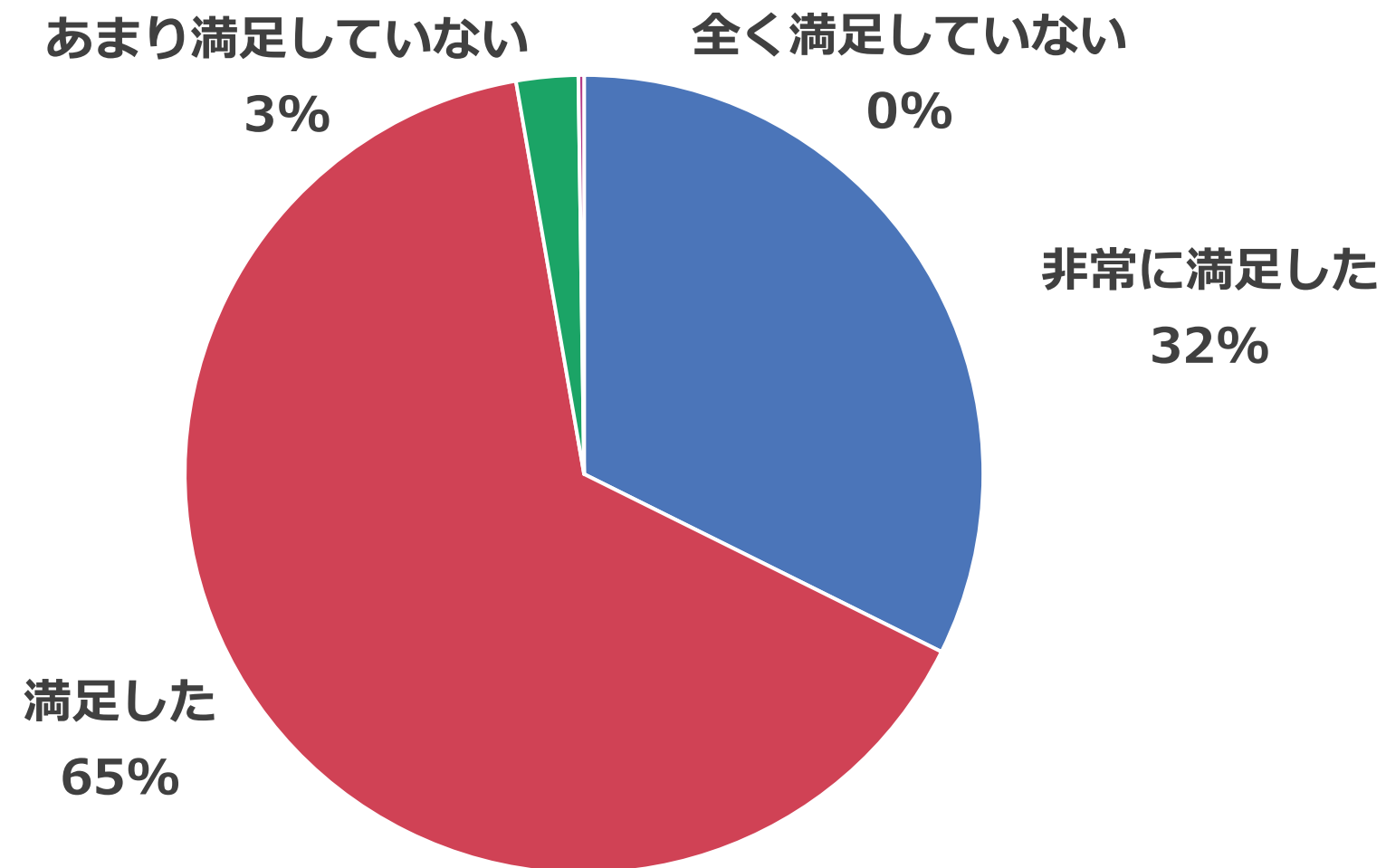


アンケート回答内容の概要

- シンポジウムの満足度は97%と高い一方で、不満足と回答した理由では4年制大学化の必要性・理由への疑問が挙がった。
- 法的・行政的環境への理解（約97%）や将来像への共感（約95%）も得られ、4年制大学化への賛成は約95%であったが、3年制専門学校の役割や共存の必要性を指摘する意見もみられた。
- 質向上が期待（87%）される一方、個人の資質や卒後教育・教育内容改善の重要性が挙げられた。
- 社会的地位と処遇の向上は83%が期待する一方、診療報酬制度や社会的認知などの影響が指摘された。
- 4年制大学化への期待が高まった（86%）が、ロードマップの不明確さを課題とする意見もみられた。
- 期待としては社会的地位・給与水準の向上（75.4%）、学術・研究能力の向上（57.6%）が挙がり、懸念は学費負担の増加であった。強化すべき教育内容として臨床能力・臨床推論・実習の充実が挙げられた。
- 臨床現場として、基礎医学知識（約40%）、臨床推論能力（約29%）、社会人マナー・コミュニケーション能力（約29%）の向上を期待している。新卒採用で3年制卒と4年制卒の違いを全く考慮しないとの回答が約51%であった。今後大学との連携は、機会があればしたい（61.5%）。個人または所属組織レベルで、理学療法士教育の質向上のために臨床推論能力の向上や臨床力の強化が挙げられた。
- 今後4年制大学推進部会で取り上げてほしいテーマとして、4年制大学化の制度・推進プロセスが最も多かった。

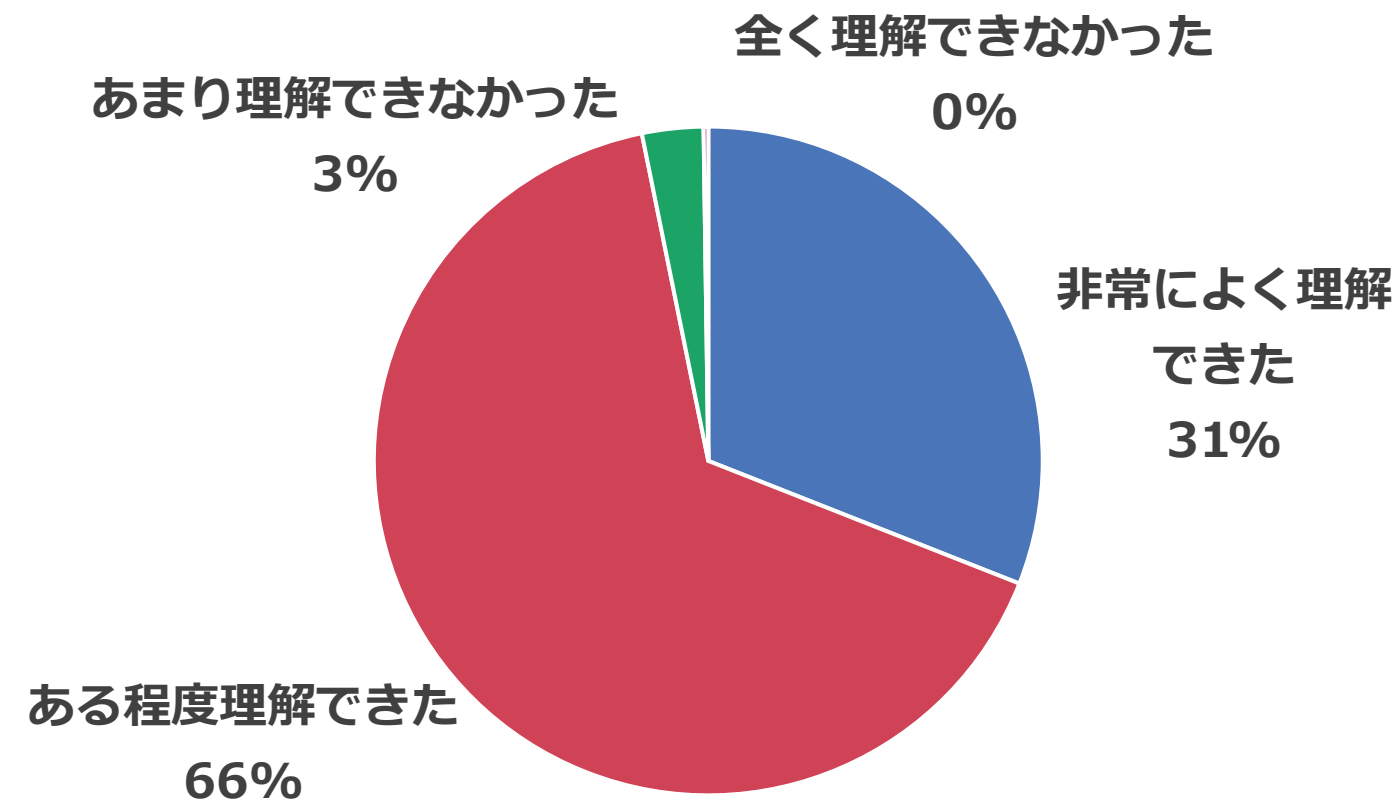
I. シンポジウム全体について

Q1. 本日のシンポジウム全体の満足度を教えてください。
(n = 439)

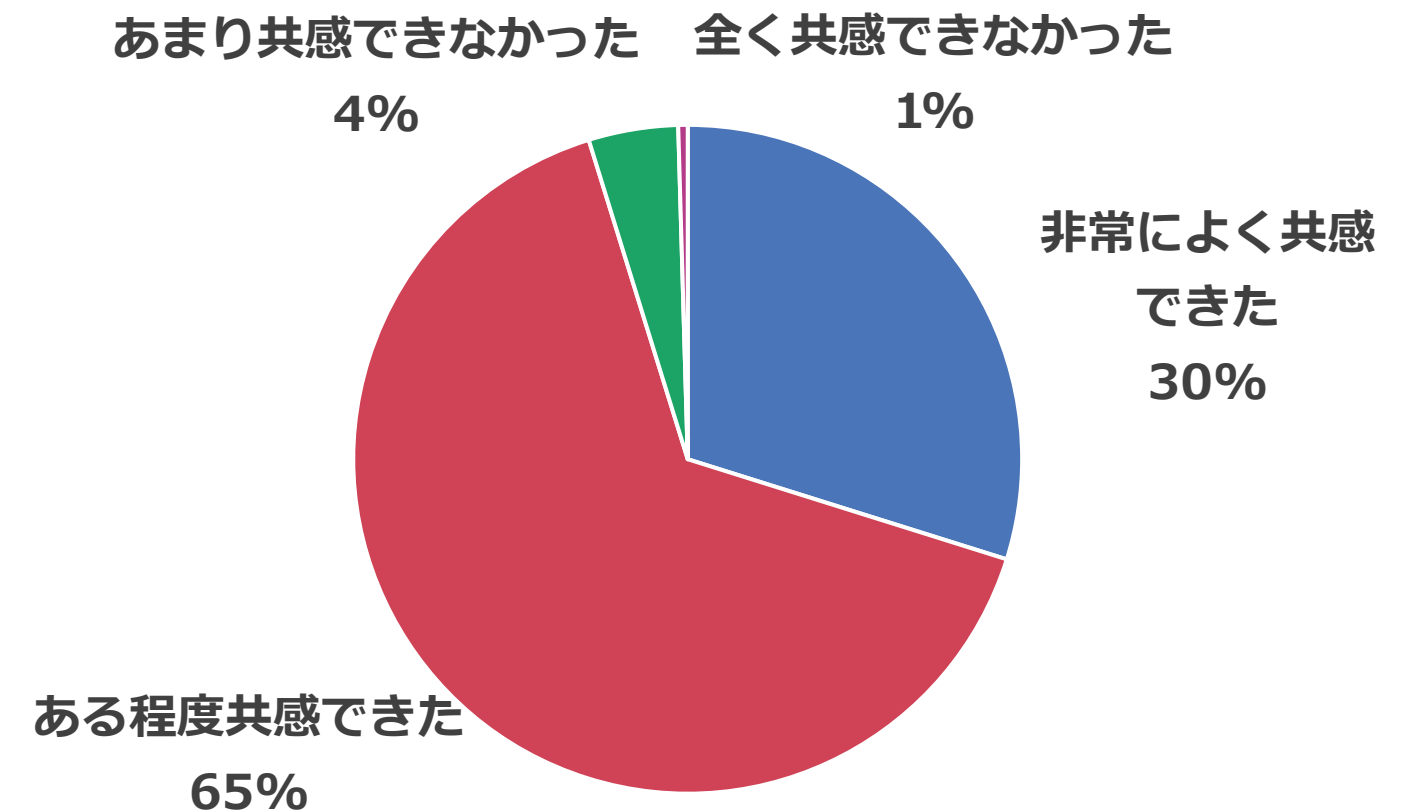


I. シンポジウム全体について

Q2. 佐々木昌弘氏、小川克巳氏の講演を通じて、理学療法士を取り巻く法的・行政的環境への理解は深まりましたか。 (n = 439)

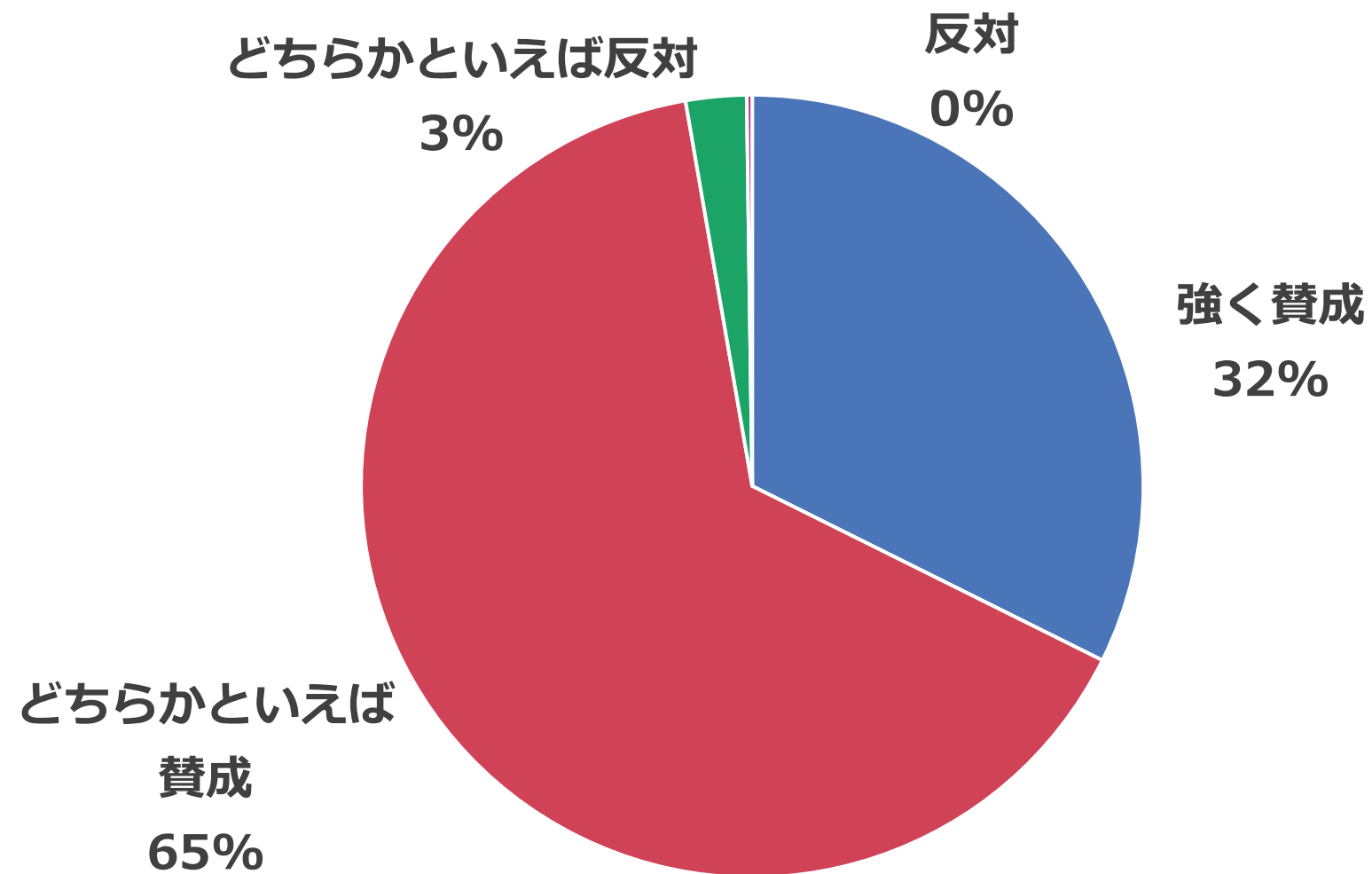


Q3. 総合討論を通じて示された理学療法士教育の「将来像」に共感できる部分がありましたか。 (n = 439)



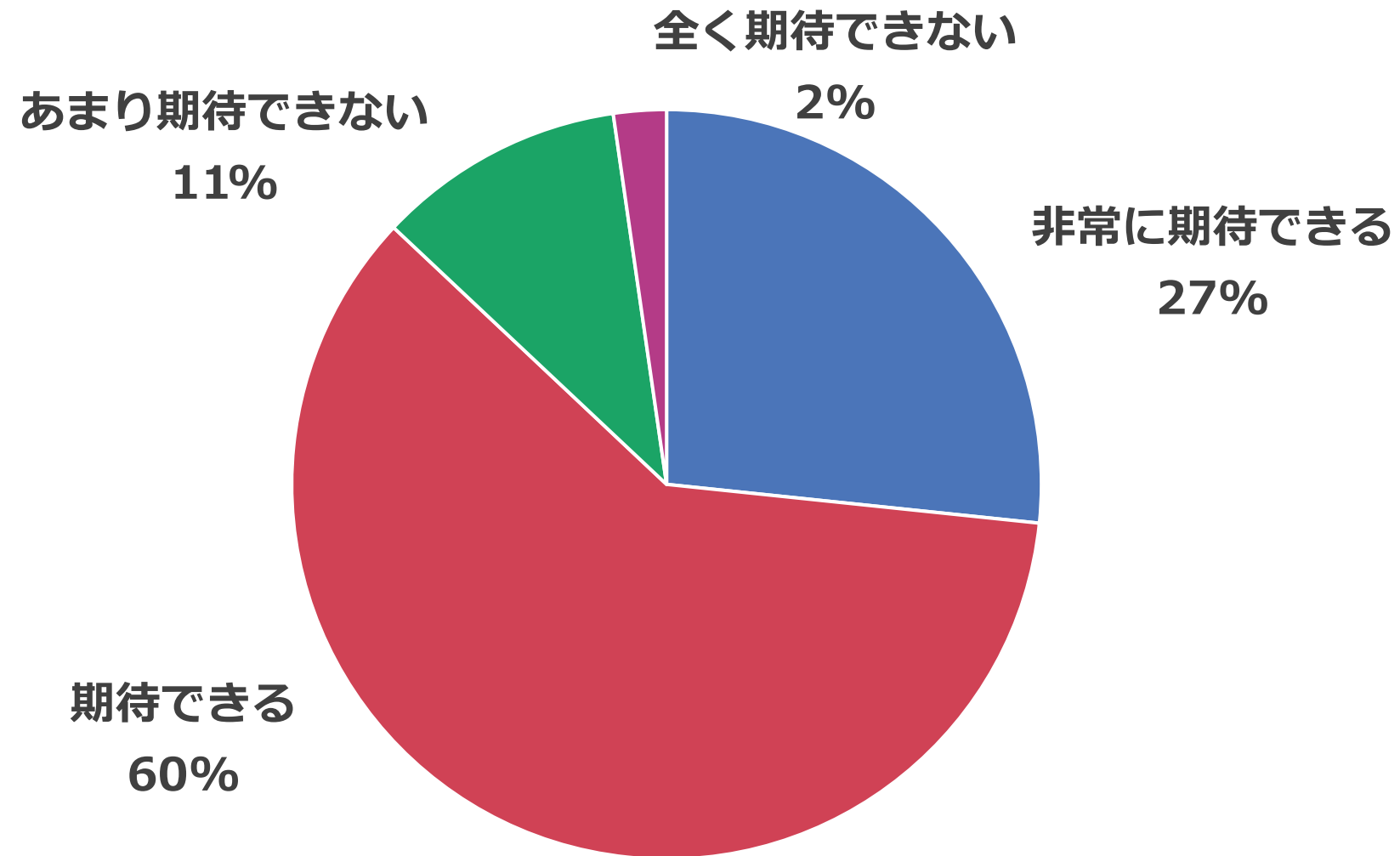
Ⅱ. 4年制大学化に対する考えについて

Q4. 理学療法士養成教育の「4年制大学化」について、現在のお考えに最も近いものを選んでください。
(n = 439)



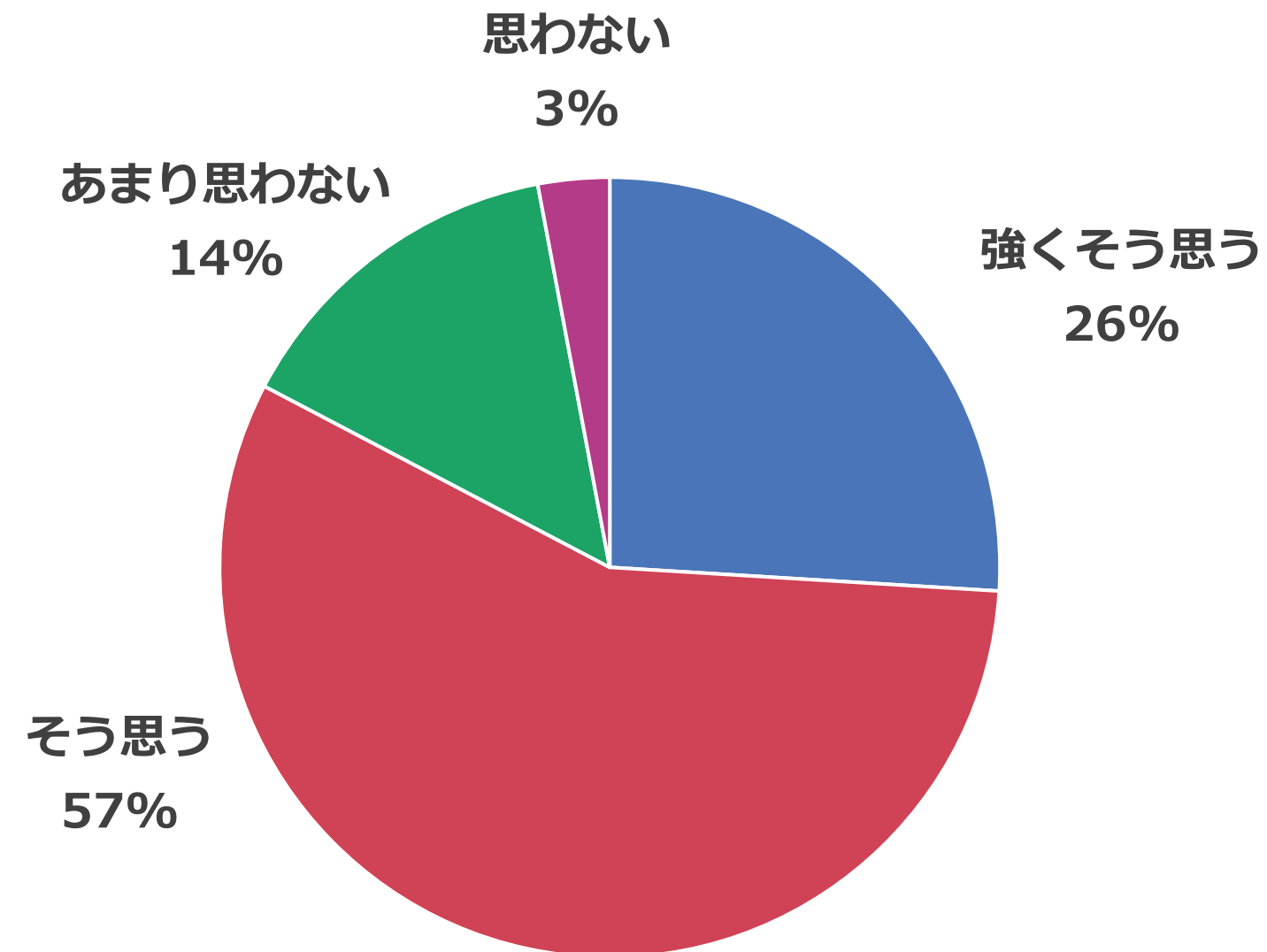
Ⅱ. 4年制大学化に対する考えについて

Q5. 4年制大学化により、理学療法士の質は向上すると期待しますか。
(n = 439)



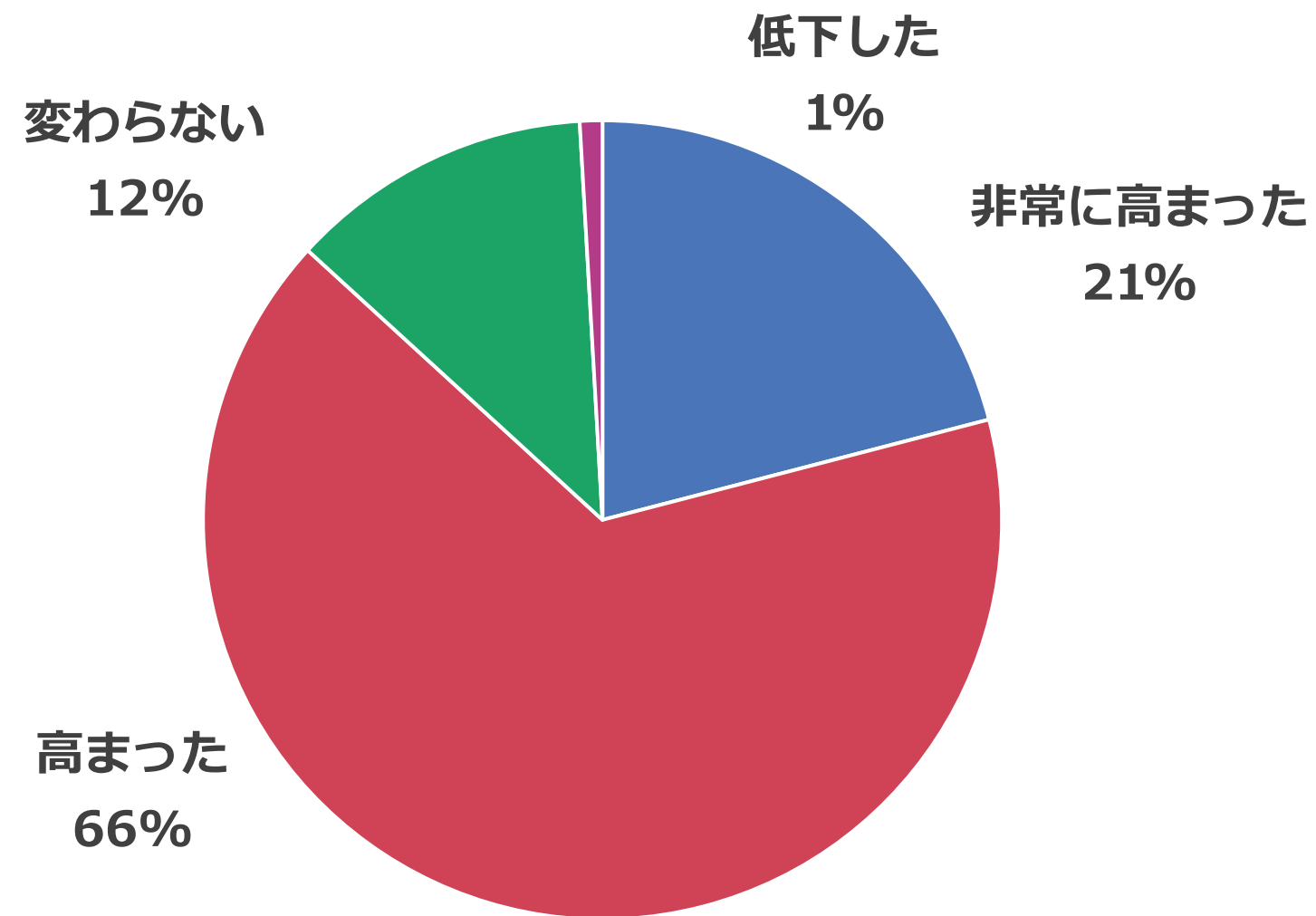
Ⅱ. 4年制大学化に対する考えについて

Q6. 4年制大学化により、理学療法士の社会的地位や処遇は向上すると思いますか。 (n = 439)



Ⅱ. 4年制大学化に対する考えについて

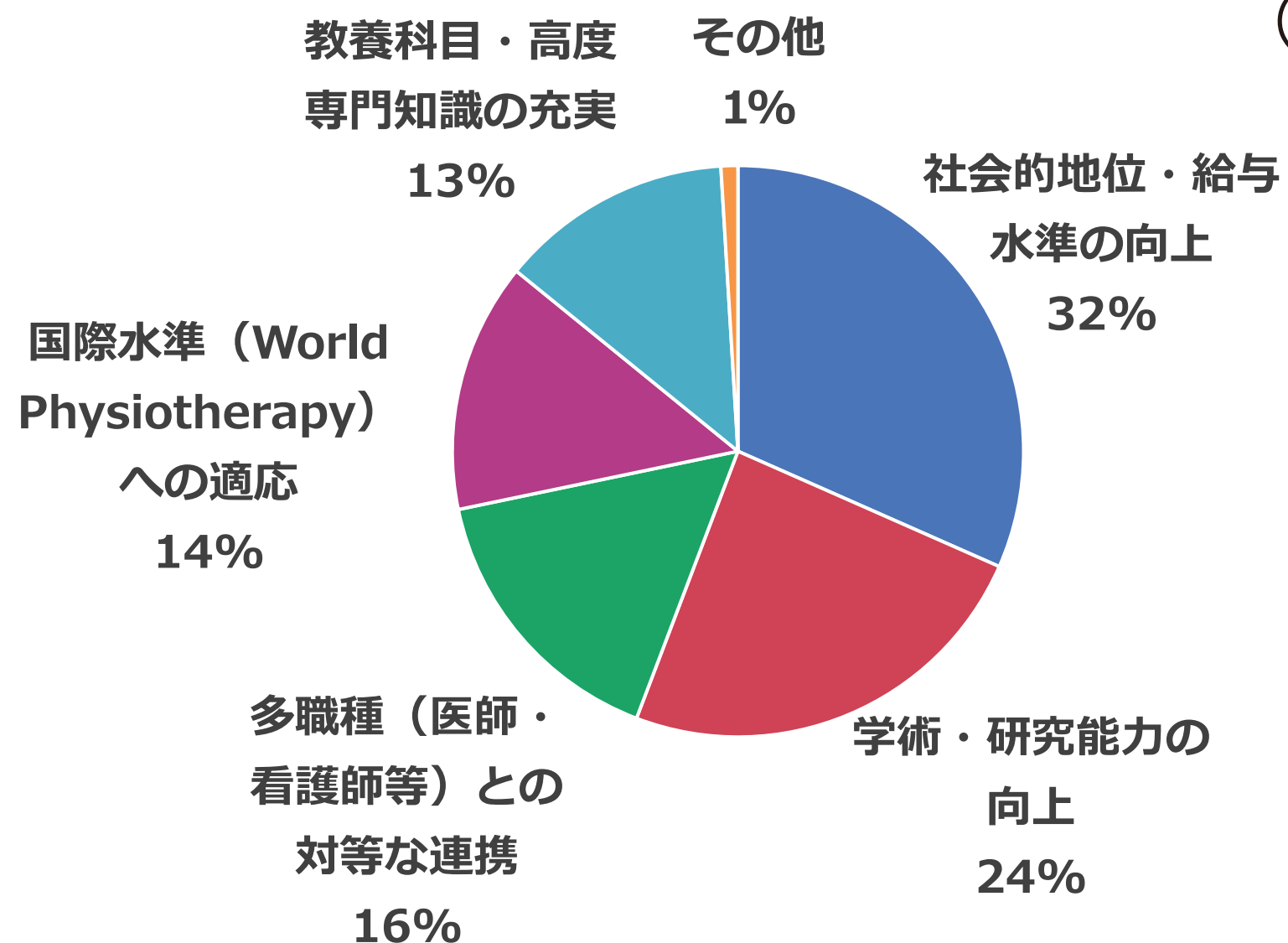
Q7. 本シンポジウムを通じて、4年制大学化への期待は高まりましたか。
(n = 439)



Ⅲ. 4年制大学化に期待すること・懸念することについて

Q8. 4年制大学化により、最も期待する効果は何ですか。

(n = 439)



【その他の内訳】

- ・国民の健康増進の向上
- ・仕事範囲の拡大
- ・理学療法士が国民の身体面と心理面から支援できる人材となり必要とされること
- ・多様な地域社会への対応能力を持った人材育成
- ・徹底的に社会性を身につけてほしい
- ・学校数の減少、それに伴うPT供給数の減少。PTが増えても協会に所属せず選挙行動を起こせないなら不要
- ・仕事の範囲の拡大
- ・開業権の取得
- ・なし

Ⅳ. 4年制大学化に期待すること・懸念することについて

Q9. 4年制大学化に対して懸念していることがあれば教えてください。(n = 116)

【全体の傾向】

4年制大学化に対する懸念として、学費や進学ハードルの上昇、大学乱立による教育の質低下、専門学校や既存理学療法士への影響を指摘する意見が多かった。また、少子化や人材確保、地域格差など制度移行に伴う構造的課題への懸念も目立った。

テーマ	件数	代表的な記述
学費・経済的負担の増加	18件	「学費が払えず入学を諦めざるを得ない方が増えるのではないか。」
大学乱立・教育の質低下への懸念	16件	「4年制大学が増えるだけなら質は下がると思う。」
専門学校・既存理学療法士への影響	15件	「専門学校卒のPTはどのような位置づけになるのか心配。」
少子化・人材確保の問題	13件	「18歳人口が減少する中で人材確保が難しくなるのではないか。」
教育水準・教員体制の確保	12件	「教育レベルを各学校が担保できるのか。」
社会人・多様な人材の参入障壁	10件	「社会人から理学療法士を目指すハードルが上がると思う。」
地域格差・養成機関配置の問題	7件	「大学養成課程がない地域で人材確保が難しくなるのではないか。」
臨床力・人間性低下への懸念	6件	「頭でっかちで社会性の低い人材が増えるのではないか。」

Ⅲ. 4年制大学化に期待すること・懸念することについて

Q10. 4年制大学化が実現した場合、特に強化すべき教育内容は何かと思いますか。 (n = 150)

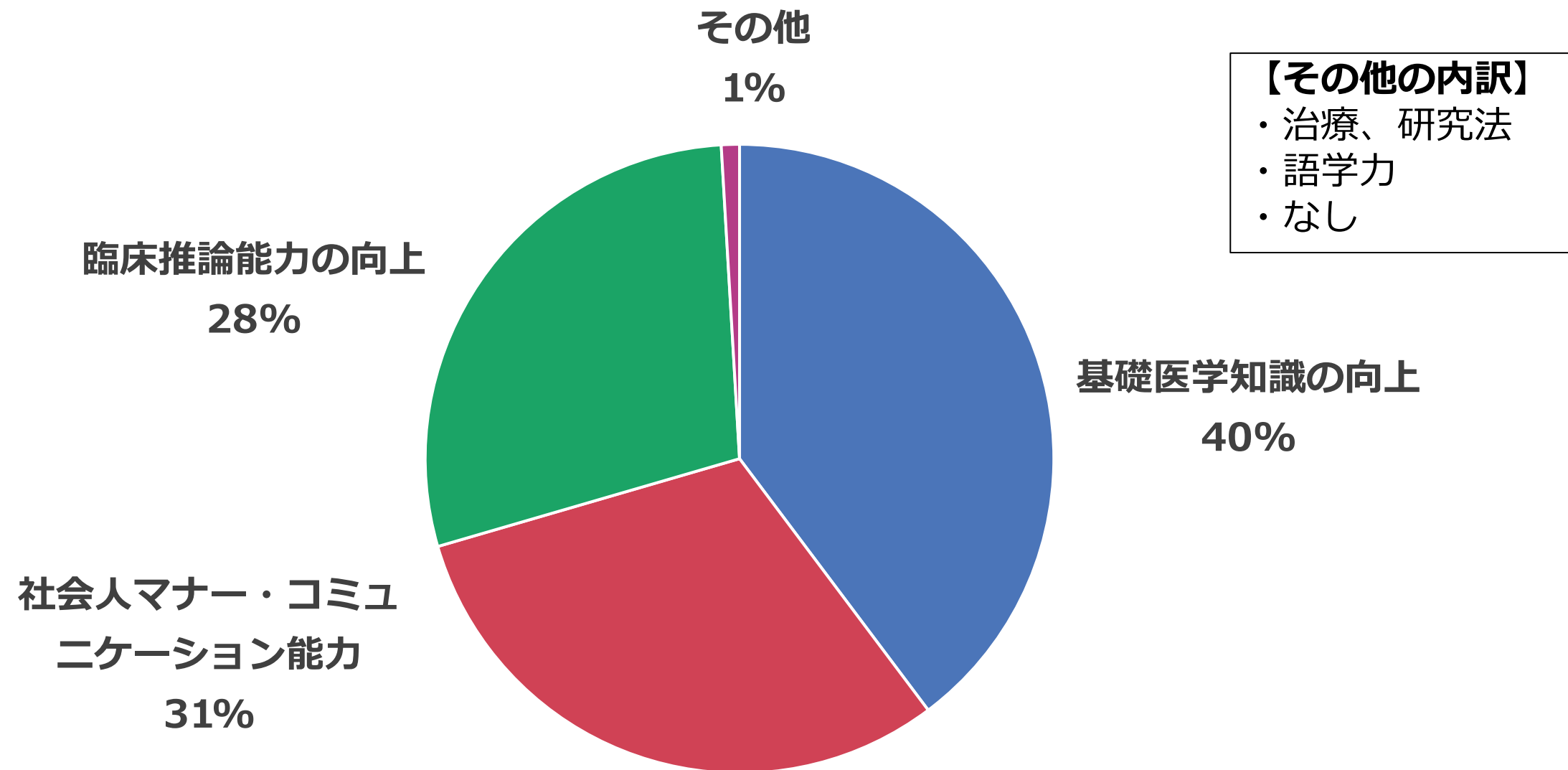
【全体の傾向】

臨床能力・臨床推論など実践的能力の強化を求める意見が最も多く、次いで研究能力や科学的思考、コミュニケーション・人間性などの社会的能力の強化が挙げられた。また、公衆衛生や国際化、AIなど新しい分野への対応を求める声も見られた。

テーマ	件数	代表的な記述
臨床能力・臨床推論・実習の強化	38	「臨床実習の充実を図り、卒後即戦力になりうる人材を学生レベルで作り上げる。」
研究能力・科学的思考（EBPなど）	29	「研究能力と論理的思考、問題発見解決能力。」
コミュニケーション・人間性・社会性	24	「コミュニケーション能力や社会性。」
基礎医学・専門知識の強化	17	「基礎的な教育（内科や整形、中枢）、リスク管理。」
公衆衛生・予防・地域医療	12	「公衆衛生学、保健学、予防医学、社会学。」
国際化・語学教育	10	「国際力の向上、語学も含め。」
社会科学・マネジメント・制度理解	9	「経営学や社会学など教養科目。」
AI・デジタル技術など新領域	6	「AIなどの最新技術について。」

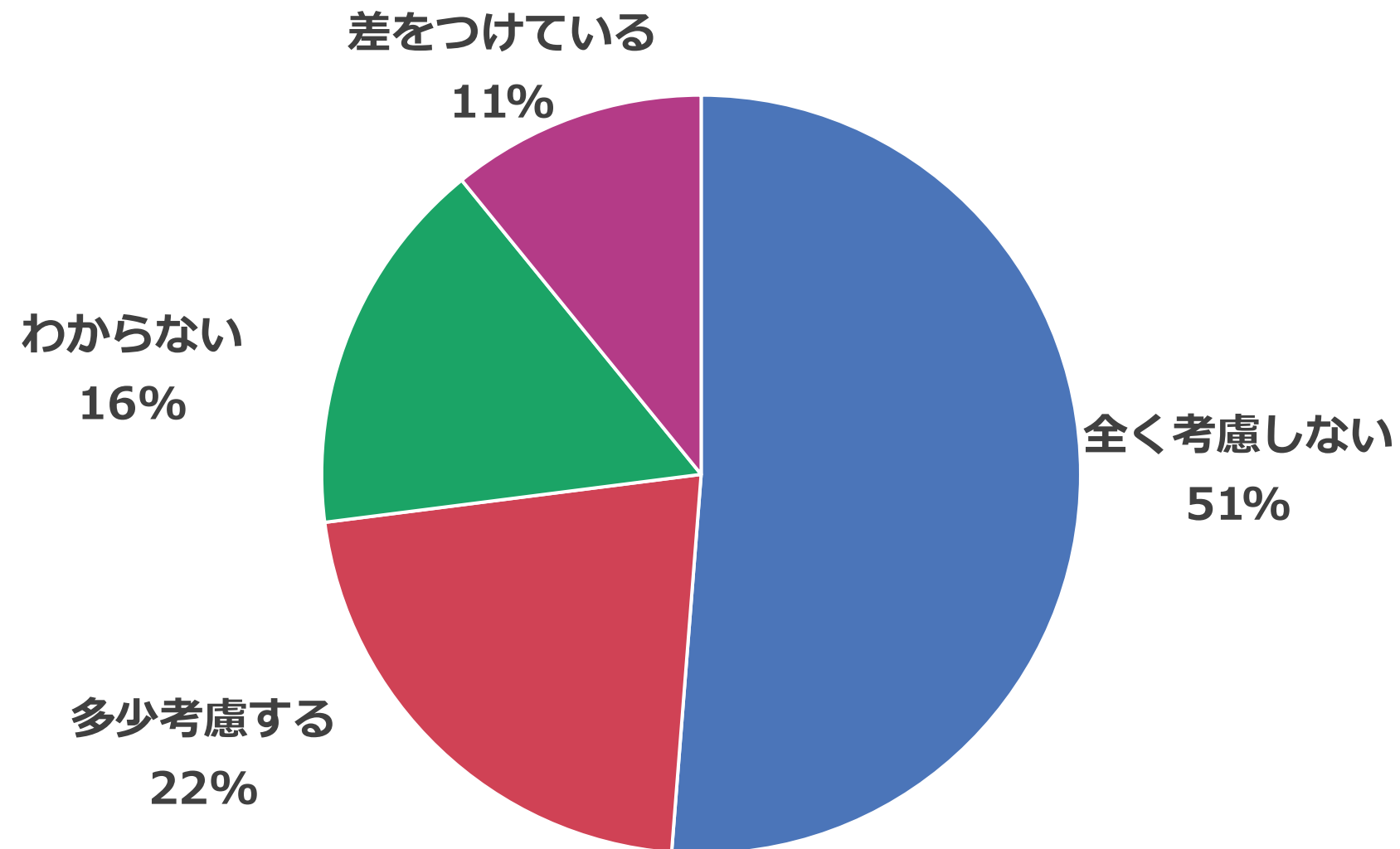
IV. 臨床現場に所属の方の意見

Q12. 学生受け入れ側として、4年制化に最も期待する変化は何ですか。(n = 322)



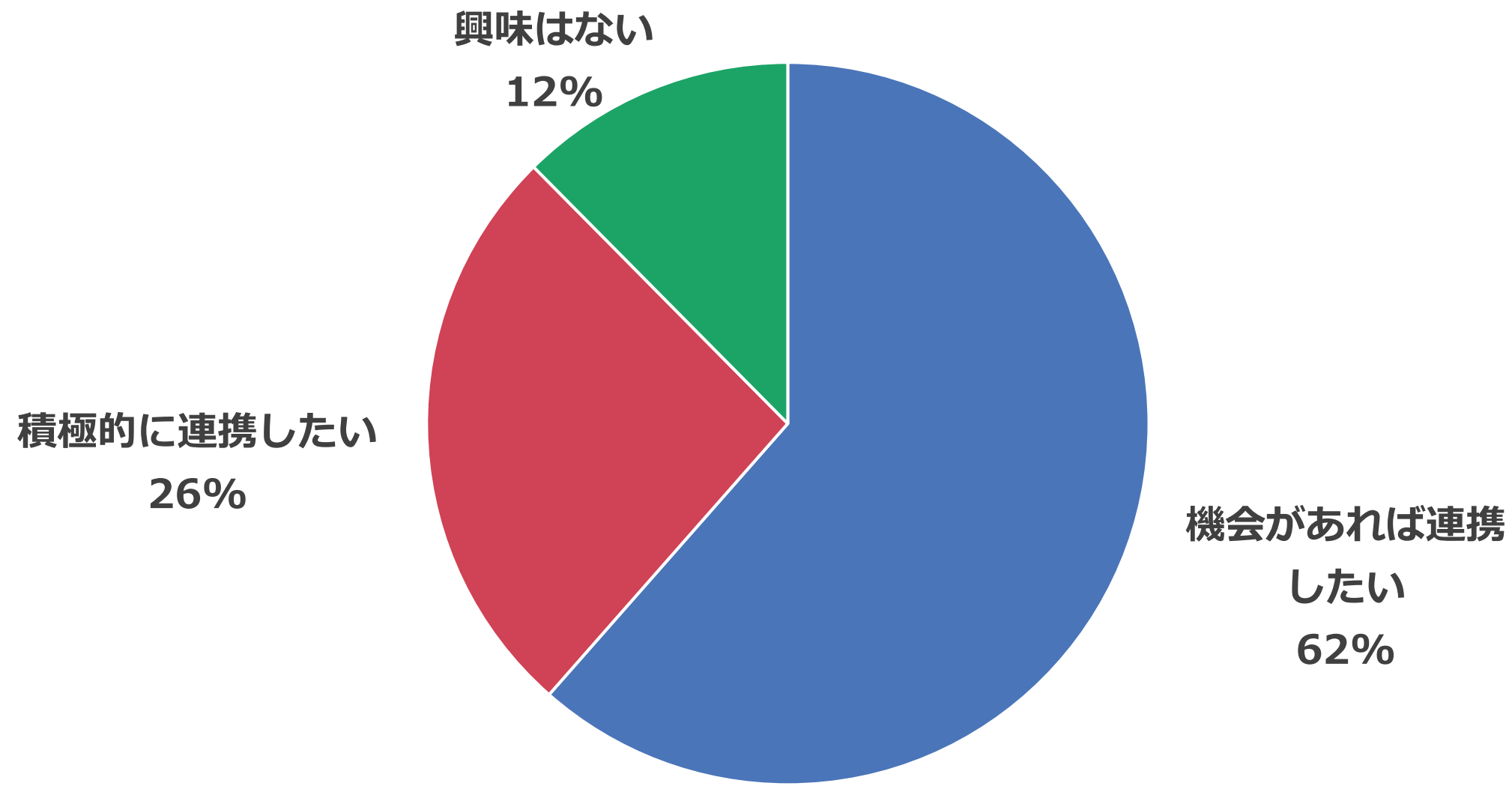
IV. 臨床現場に所属の方の意見

Q13. あなたの職場では、新卒採用において、3年制卒と4年制卒で評価に差をつけていますか。
(n = 322)



IV. 臨床現場に所属の方の意見

Q14. 今後、大学と共同研究や卒後教育で連携したいと思いますか。(N=322)



V. 今後に向けて

Q15. あなた自身、または所属機関として、理学療法士教育の質向上のために今後取り組むべきことがあれば教えてください。
(n = 169)

【全体の傾向】

卒後教育・臨床能力向上・研究活動の推進に関する意見が多く、加えて臨床実習教育や新人教育など教育体制の強化を求める声が目立った。さらに、多職種連携・地域医療・制度整備など理学療法士の役割拡大を見据えた意見もみられた。

テーマ	件数	代表的な記述
臨床能力・臨床推論力の向上	32	臨床推論能力の向上や臨床力の強化
卒後教育・継続教育の充実	31	卒後教育の体系化や院内教育の充実
研究活動・学術活動の推進	25	学会発表や論文執筆を通じて研究力を高める
臨床実習教育・指導体制の強化	15	臨床実習指導者の教育力向上や実習制度の改善
教育体制・教員の教育力向上	13	教員の教育力向上と臨床・研究の循環
専門性向上（資格取得・大学院進学）	12	認定・専門理学療法士の取得や大学院進学の推進
多職種連携・地域医療への対応	11	多職種連携教育や地域住民への健康予防活動
社会人基礎力・倫理・人間性教育	9	社会人としての常識や医療倫理の教育
制度・組織環境の整備	8	能力や努力が評価される制度や学習環境の整備

V. 今後に向けて

Q16. 今後4年制大学推進部会で取り上げてほしいテーマがあれば教えてください。 (n = 94)

【全体の傾向】

4年制大学化の具体的な進め方（制度・スケジュール・課題）に関する意見が最も多く、加えて教育内容・カリキュラム、3年制との関係、臨床実習や卒後教育に関する議論を求める声がみられた。また、国際比較や職域・処遇など理学療法士の社会的地位向上に関するテーマも挙げられた。

テーマ	件数	代表的な記述
4年制大学化の制度・推進プロセス	18	4年制大学化に向けた具体的スケジュールや工程、実現のためのアクションプラン
3年制養成校との関係・移行課題	14	3年制と4年制の違いや共存、専門学校卒PTが取り残されない仕組み
教育内容・カリキュラムの在り方	13	4年制大学における教育プログラムやカリキュラムの具体像
臨床実習・卒後教育との接続	11	臨床実習の質向上や大学教育と卒後教育をつなぐ仕組み
国際比較・海外教育制度	9	諸外国の教育制度や教育水準との比較
理学療法士の社会的地位・処遇	9	理学療法士の社会的価値向上や賃金・職域拡大
研究教育・大学院教育	7	研究の進め方や大学院教育、PhD取得など
教員・教育体制の質向上	6	教員の質向上や大学教育における指導体制
職能団体・政策・法制度	4	協会活動や理学療法士法改正など制度的課題
情報発信・意見交換の場	3	若手との意見交換や部会活動の情報発信